

中越⇒中越沖⇒東日本大震災
を体験して見えた

想定すべき課題

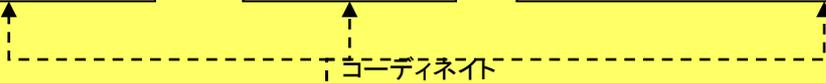
中越・中越沖地震での教訓より



避難所巡回 多言語情報の提供

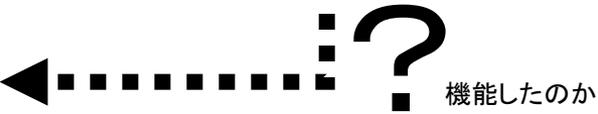


専門スタッフ 地域FM 全国ネットによる迅速な翻訳



多言語支援センター

東日本大震災



~~避難所巡回~~

⇒入れない(ガソリンや車)
⇒外部からの支援の限界

旅行者の問題

~~多言語情報の提供~~

最もほしかったものは、放射能
⇒国の情報の限界

災害時に必要な連携

大使館 ⇒要

多言語支援センター

⇒だけでは片手落ち
⇒なぜか

外国人住民に特化したものでは、逆に...

※災害弱者を支援する仕組み
⇒その中の一つに外国人支援をいれる

東日本大震災でも見えない被災者

・要介護 ・障害者 ・子育て ・外国人など
多様性の中での総合的支援と連携

具体的には

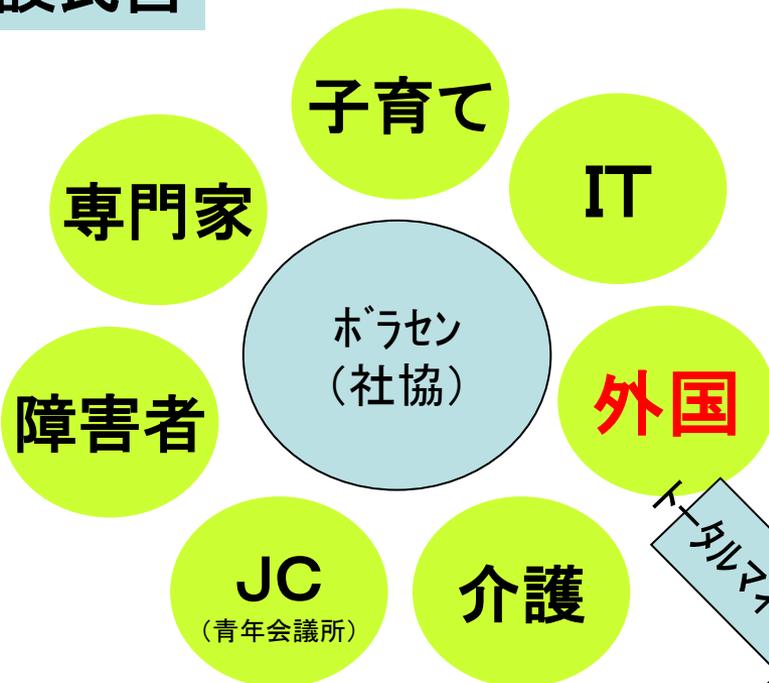
通常のボランティアセンター

社会福祉協議会

専門性がない
↓
見えない被災者

バックアップセンター方式

公設民営



復興基金
運用

団体

団体

団体

被災地支援

トータルマネジメント

市内避難所受入支援

東日本大震災ボランティアバックアップセンター

南相馬市ほか1,000名

『情報』と『実働』の協働

『広域災害』と『複合災害』を

想定した支援体制

国に情報を早くするよう提言を

平常時の訓練のありかた

行政と社会福祉協議会と民間の連携

大使館と連携（情報共有・安否確認）